

女性活躍
モデル事業

SDGs未来都市・横浜



ICTを活用した“職住近接”の新しい働き方

ショートタイムテレワークを市内企業で始動

「SDGs未来都市・横浜」の実現に向け、横浜市とソフトバンク株式会社との包括連携協定に基づき、磯子区汐見台地区で進めてきた女性活躍支援の新しい働き方「ショートタイムテレワーク※」を新たに市内企業でスタートさせます。

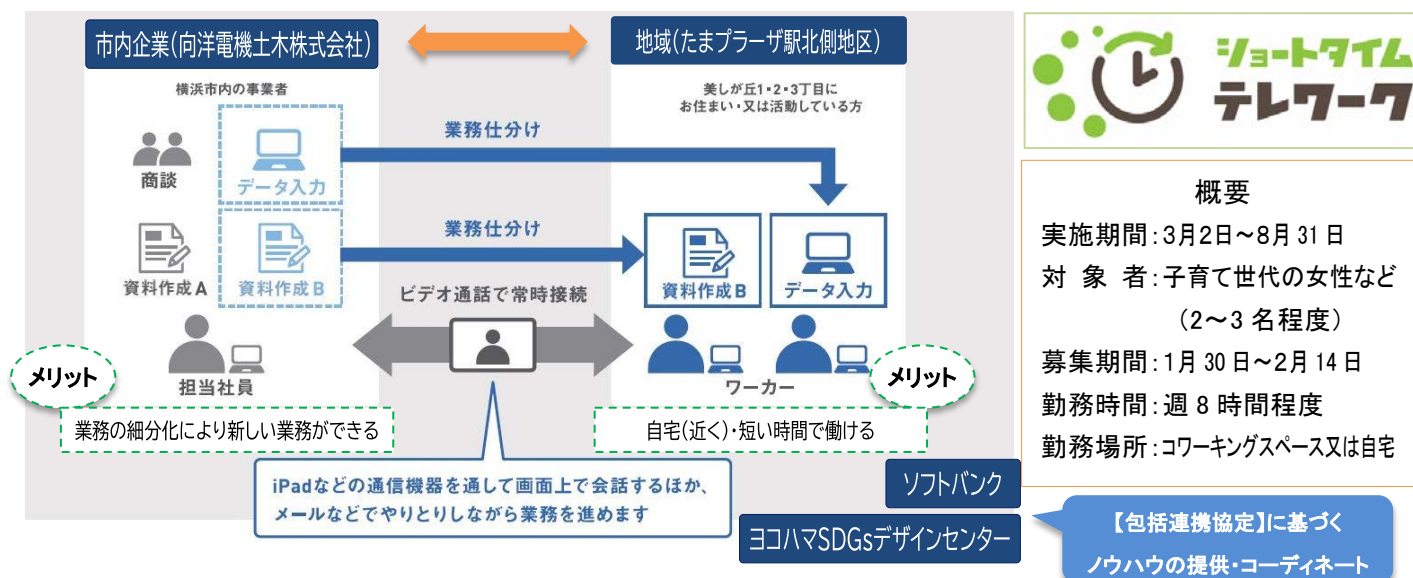
先駆的なテレワーク※¹を推進している向洋電機土木株式会社（よこはまグッドバランス賞※²認定・特別賞受賞企業）とWISE Living Labを拠点として次世代郊外まちづくり※³を進めている「たまプラーザ駅北側地区」の連携を「ヨコハマSDGsデザインセンター」と「ソフトバンク株式会社」がコーディネートし、ショートタイムテレワークの普及・展開を図ります。

このチャレンジを通じて、子育て等により離職した女性が就労に向けた第一歩を踏み出せる機会の創出や、誰もが「住みたい」「住み続けたい」まちの実現を目指します。

※ショートタイムテレワーク…パソコンやスマートフォン、タブレットなどのICTの活用により、遠隔地でもリアルタイムで会話等しながら、自宅（近く）で短時間就労という、時間や場所に縛られない新しい働き方

取組概要・イメージ

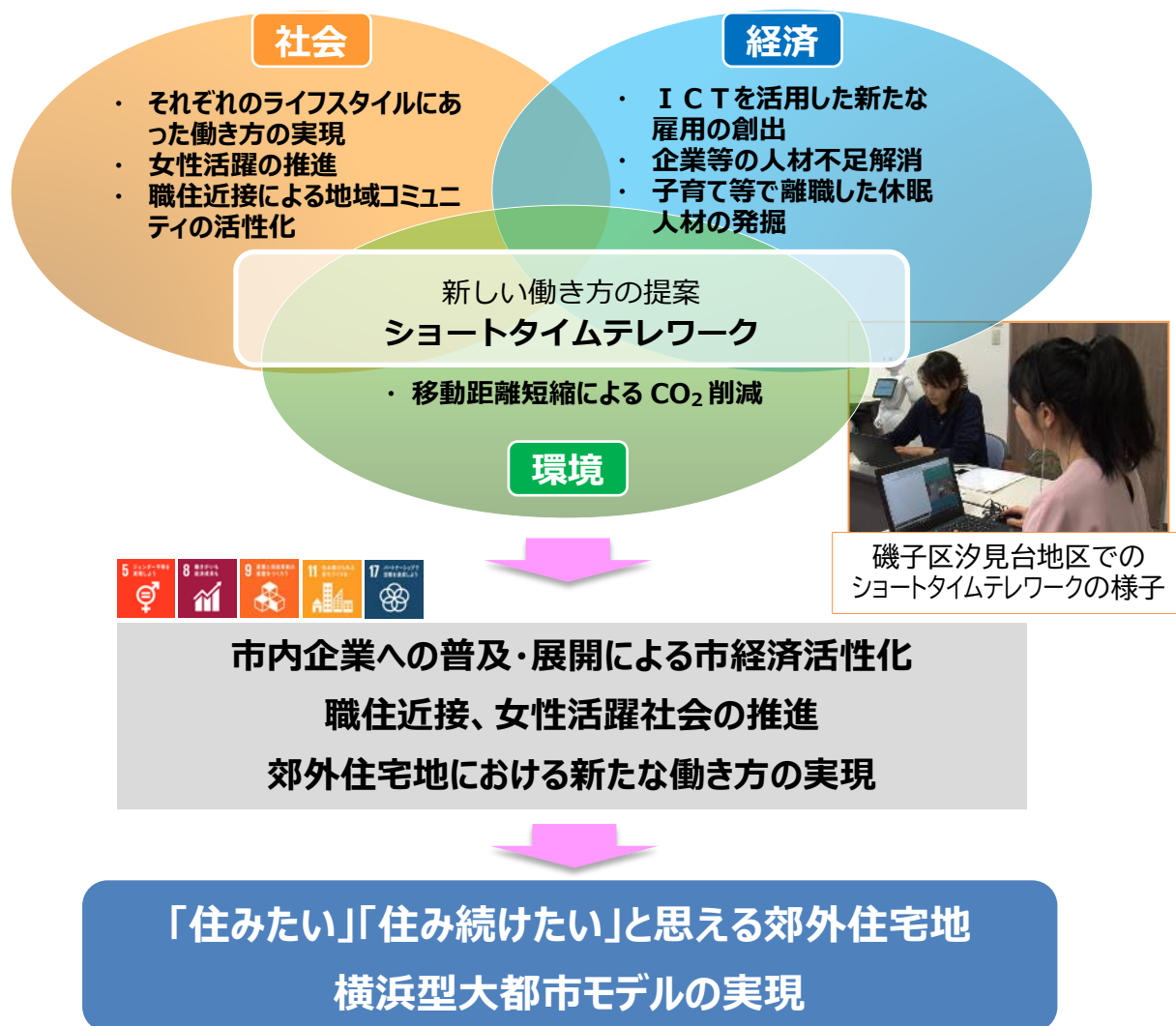
市内企業と地域をICT（ビデオ通話等）でつなぎ、通勤時間や就労時間を短くすることで、自宅（近く）で企業の一員として業務に参加していただくことができる取組です。



【ショートタイムテレワーク協力企業・団体】

- ヨコハマSDGsデザインセンター : プロジェクト企画・コーディネート・PR
- 向洋電機土木株式会社（横浜市南区） : テレワーカー（アルバイト）雇用の場の提供
- ソフトバンク株式会社（東京都港区） : 本事業に関するノウハウ提供・通信機器貸与等
- 東急株式会社（東京都渋谷区） : WISE Living Lab（次世代郊外まちづくり）との連携
- : 美しが丘ワーキングスペース（セラン事務局）との連携

裏面あり



- ※1 先駆的なテレワーク:2008 年度から情報通信技術を駆使した独自のテレワーク制度を構築。2015 年厚生労働大臣表彰「輝くテレワーク賞」個人賞、総務省「テレワーク先駆者百選 総務大臣賞」(2018 年度) 等多数受賞
- ※2 よこはまグッドバランス賞:女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの推進など男女がともに働きやすい職場環境づくりを積極的にすすめる市内中小企業等を横浜市が認定・表彰する制度
- ※3 次世代郊外まちづくり:横浜市と東急株式会社が 2012 年 4 月に締結した包括協定に基づき、たまプラーザ駅北側地区で WISE Living Lab を拠点として「田園都市で暮らす、働く」をテーマに取り組んでいる

「SDGs 未来都市・横浜」の実現を目指し、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る、横浜型「大都市モデル」の創出に向け、多様な主体との連携によって自らも課題解決に取り組む中間支援組織【ウェブサイト】<https://yokohama-sdgs.jp/>

ヨコハマ SDGs デザインセンター



お問合せ先

◆SDGs 未来都市に関すること

温暖化対策統括本部 SDGs 未来都市推進課長

高橋 知宏

Tel 045-671-3901

◆女性活躍推進・職住近接の取組・よこはまグッドバランス賞に関すること

政策局男女共同参画推進課担当課長

倉田 真希

Tel 045-671-3691

◆次世代郊外まちづくりに関すること

建築局住宅再生課担当課長

加藤 忠義

Tel 045-671-4458

【参考】ヨコハマ SDGs デザインセンターとソフトバンク株式会社が行った実証実験

1. 実施期間	2019年3月1日～8月31日
2. 対象者	汐見台地区（横浜市磯子区）在住 子育て中などの理由により、長時間勤務や長距離通勤が困難な方
3. 職種・業務内容	ソフトバンクのCSR部門（社会貢献部門）の業務 ① 企画 ② 一般事務、企画サポート
4. 使用する ICT 機器	パソコン、タブレット等をソフトバンクより無償貸与 ビデオ通話などのコミュニケーションツールを利用
5. 勤務時間	週8時間程度（4時間×2日）
6. 勤務場所	自宅又は汐見台福祉センター（所在地：磯子区汐見台2-4-6）
7. 参加スタッフ人数	6人
8. 報告書	実証実験結果の詳細は、以下のWEBサイトより確認できます。 URL： https://yokohama-sdgs.jp/events/detail/94

【アンケート結果抜粋】

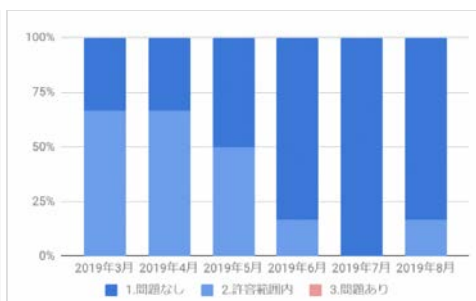
本実験期間中、毎月1回の頻度で、参加者の方（働き手側、雇用側）を対象にアンケートを実施し、総合満足度、ICTを活用したコミュニケーションの満足度、復帰への自信等について計測しました。

＜働き手側＞

開始当初からスタッフの満足度は非常に高く、終了月になる頃には遠隔での勤務について支障を感じない人が多くなった。



満足度について



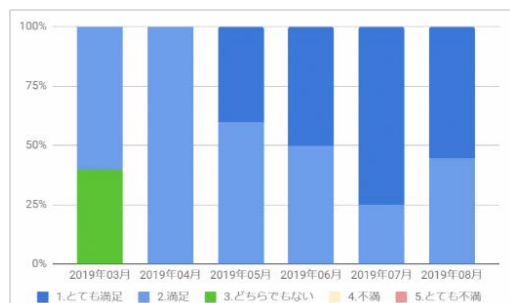
ICTコミュニケーション手段について



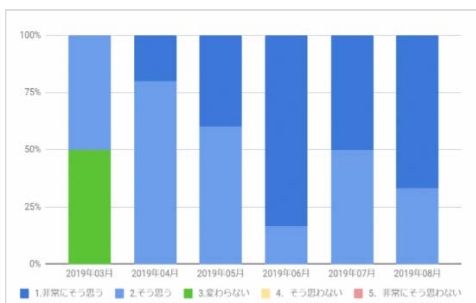
復帰への自信について

＜雇用側＞

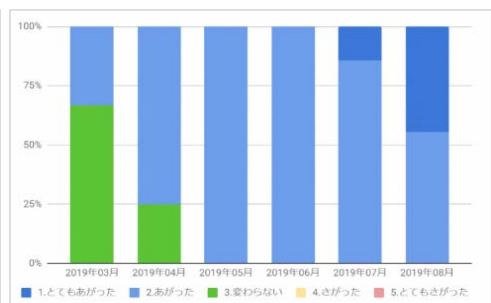
開始時期には全項目において「どちらでもない」と回答した担当者が多かったが、徐々にスタッフに業務を切り出すことに慣れて、生産性の向上を実感することができた



満足度について



勤務時間・勤務場所は共に働く上で
障害にならないことを実感できたか



業務生産性はあがったか